

## ■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、下記のような傾向が見られた。
- 話し合い活動で得たスキルを生かして友達に考えを伝え合う活動に真剣に取り組む児童が多い。
  - 問題文や図、表やグラフ等の資料から、必要な情報を読み取り、整理して問い合わせに答えることが難しい児童が多い。
  - 知識として覚えていても、それを図や状況と結びつけて活用する力が弱い傾向にある。
  - 「〇字以上、〇字以内で答える」という形式の設問には苦手意識がある子が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 主体的で深い学びを推進していく上で、下記のような課題がある。
- 教師からの一方的な授業展開にならないように、教師はファシリテート役になる必要がある（一問繋答）。
  - ペア学習、グループ学習などを取り入れた学習場面を設定する必要がある。
  - 教師だけで物事を決めるのではなく、主に学級活動の時間に話し合い活動を充実させる必要がある。
  - 「ここ」「それ」などが指示する言葉について、教師による問い合わせを多くし児童が自らその言葉を見付けられるような場面を設定する必要がある。（照応解決）

## ■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 全ての教科等における学力向上を支えている読み解く力を基盤として、児童自身が学び方を選択・決定・調整できる力を育成する。
- 小中9年間の義務教育をつなぐ教育の実践を通して、学力向上を目指す。
- 一人一台の端末を用いた個別最適な学びの充実と、主体的に学習する力を育成する。
- 授業のはじめに、ねらいを明確につかませ、学習の見通しをもたせる。また、ねらいに対する振り返りの時間を必ず設け、授業で何を学んだのかを分かるようにする。
- すべての児童に対して、公平で質の高い教育を実践するために、タブレット端末を活用し家庭と連携を図って児童の学びを止めないようにしていく。⇒SDGs17の目標の④の実践。
- 授業や単元の導入段階を大切にし、児童が意欲と見通しをもって取り組むことのできる授業の構築を目指す。
- 児童が主体となる授業づくりに努め、主体的・対話的で深い学びとなるような場面を設定し、授業展開の工夫を図る。

## ■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋授業スタンダードSの取組	一人一台端末の効果的な活用	読み解く力を基盤とした授業

## ■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	個別最適な学び・協働的な学びの実現	カリキュラム・マネジメントの推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びのエリアの4校で校内研究のテーマをそろえて、常に情報交換し合いながら研究を進めていく。</li> <li>○スタディアップタイムでは、読み解く力のうち、さらに強化させたい力を高める教材を作成し、児童に取り組ませる。</li> <li>○学校独自で作成した板二小RSテストを1年に2回実施し、結果の分析を行い、授業改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すららドリルや学習サイトなどを用いて、個別最適化された学習に取り組ませたり、オクリンクプラスやGoogleアプリを用いて個人の考えを共有し、意見や考えを深めさせたりする。</li> <li>○学びの自己調整に関するアンケートの結果や、各教科への理解度をもとにして、個に応じた支援策を決める。</li> <li>○学習内容によっては、自分で学習するか、友達と学習するのかを児童に選択、決定、調整できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ESD（持続可能な開発のための開発）の視点を踏まえ、ビオトープを活用した学習を充実させる。</li> <li>○環境教育と教科を結びつけた年間指導計画の加筆修正を毎月行う。</li> <li>○総合的な学習の時間で作成した発表資料を、国語の学習と結びつけて異学年間で発表する時間を確保する。</li> </ul>